

ヨハネの手紙第一

§3 3つの検証の詳論(3:1-4:6)[その2]

前回の復習

1. 私たちは本来受けるに値しない神の愛を与えられ、神の子とされた。
2. 神の子である私たちは、イエスが再臨される時、イエスに似た者へと変えられる。
3. 神の愛の素晴らしさ、イエスのありのままの姿を見ることになるという希望から、私たちは清く歩みたいと願い、それを実践していくことになる。

§3 3つの検証の詳論(3:1-4:6)[その2]

1. 道徳的検証: 義の実践(3:1-10)

1-2. キリストの業と義の実践(3:4-6)

はじめに

1. 2:18-29 で、私たちはイエス・キリストを神の子と信じているから「救われている」と言えるのだ、ということ学んだ。
2. 3:1-3 では、私たちが清く歩みたいと願い、それを実践していくことの動機は、イエスの再臨にある希望であることを学んだ。
3. ヨハネは再び、「クリスチャンであることの証拠は、単に正統的信仰に立っているかどうかだけではなく、言動が道徳的であることにもよる」ということを教えていく¹。
4. ヨハネは2:28-3:3 で再臨のイエスに焦点を当てていた。今回の箇所では、イエスが地上でどのように歩まれたのかということに焦点が当てられている。

3:4 罪を犯している者はみな、不法を行っているのです。罪とは律法に逆らうことなのです。

1. 「**罪を犯している者**」の意味
(1) これは、罪を習慣的に犯し続けている者、という意味である。

¹ ジョン・R・W・ストット『ティンデル聖書注解 ヨハネの手紙』千田俊昭訳（いのちのことば社、2007年）130頁

(2) J. Vernon McGee 牧師は「単に罪の中に“生きている”人のこと」と説明している²。

2. 「罪 *hamartia*」とは、「的を打ち損ねる」すなわち「的外れ」という意味である。
3. 罪＝法に背くこと
 - (1) 罪の中に生きている者はみな、「**不法を行っている**」。また、罪とは「**法に背くこと**」である（新共同訳）。
 - (2) 「不法を行う」と「法に背くこと」に使われている言葉の意味は、「法がない状態」や「法を軽蔑し、違反している状態」を意味する。
 - (3) 「法」とは、神の御心、また神の義の基準と考えることができるだろう。
 - (4) 罪とは、神の御心／義の基準を無視し、軽蔑し、それに違反することである。
 - (5) 罪とは、神の御心／義の基準から**わざと**的を外してしまっている状態である³。

3:5 キリストが現れたのは罪を取り除くためであったことを、あなたがたは知っています。キリストには何の罪もありません。

1. 生まれたときから罪人である私たちにとって、キリストは恵みの道である。
 - (1) 人間はアダムから罪の性質を受け継いでいるので、本能的に神の御心／義の基準を無視し、軽蔑し、それに違反しようとする。
 - (2) 神は人間への恵みの道として、私たちの罪を取り除くために、御子を遣わされた。
ヨハ 1:29b 見よ、世の罪を取り除く神の小羊。
 - (3) 私たちはそのことを直感的に「知っている」。それは、既にイエスが私たちの罪のために死なれ、復活されたことを信じているからである。
2. イエスの無罪性の証言
 - (1) ヨハネは人間イエスの目撃者として、「**キリストには何の罪もありません**」と言っている。
 - (2) 同じくイエスと3年間を過ごしたペテロも、「**キリストは罪を犯したことがなく、その口に何の偽りも見いだされませんでした**」と証言している（Iペテ 2:22）。
 - (3) ヨハネは、イエスを目撃し、イエスから教わり、イエスと共に過ごした者として「イエスは罪のない救い主（キリスト）であり、彼は私たちの罪を取り除くために現れた。」

² J. Vernon McGee, *Thru the Bible* (TWR Japan 「いのちのみことば」 <http://ttb.twr.org>)

³ E. Edmond Hierbert, "An Expository Study of 1 John Part 5: An Exposition of 1 John 2:29-3:12," *Bibliotheca Sacra*, 146 (1989), 208.

あなたがたはそれを直感的に知っているでしょう」と言っているのである。

3:6 だれでもキリストのうちにとどまる者は、罪を犯しません。罪を犯す者はだれも、キリストを見てもないし、知ってもいないのです。

1. キリストにとどまる者は、習慣的な罪を犯すことはない。
 - (1) キリストは罪のない方である。だから、私たちクリスチャンが彼の内にとどまるなら罪を犯さないということは、論理的には当然の結論である。
 - (2) しかし、ヨハネは 1:8 で「もし、罪はないと言うなら、私たちは自分を欺いており、真理は私たちのうちがありません」と言っていた。
 - (3) 「罪を犯しません」の時制は現在形である。ギリシャ語の現在形は、ある動作が継続していることも意味する⁴。
 - (4) NIV や ESV は「罪を犯し続けません no one ... keeps on sinning」と訳している。
 - (5) つまり、ここでの「罪」とは「習慣的・常習的」な罪のことである⁵。
 - (6) キリストは信者の内から罪を取り除かれた。また、私たちの内には聖霊が与えられた。だから、私たちは完全に罪の中で生きているわけではない。

2. しかし、罪に対しては厳しい態度を取る必要がある。
 - (1) 聖書は、罪やこの世に対するクリスチャンの姿勢は「戦い」とであると教えている（エペ6:10-20など）。
 - (2) 私たちは罪深い古い自分とも霊的戦いの中にある。
 - (3) 私たちはその戦いに勝利することが定められている。なぜなら、私たちが罪を犯すことがないように変えられていくのは神の御手によるからである。

1ペテ2:13-15 ですから、あなたがたは、心を引き締め、身を慎み、イエス・キリストの現れるときあなたがたにもたらされる恵みを、ひたすら待ち望みなさい。従順な子どもとなり、以前あなたがたが無知であったときのさまざま欲望に従わず、あなたがたを召してくださった聖なる方にならって、あなたがた自身も、あらゆる行いにおいて聖なるものとされなさい。
 - (4) イエスを信じることは、私たちがイエスにあって勝利することも信じることである。だから、私たちは信仰により、罪に対して厳しい態度を取る必要がある。

⁴ ジェレミー・ダフ『エレメンツ 新約聖書ギリシャ語教本』浅野淳博訳、増補改訂版（新教出版社、2016年）45-46頁

⁵ ストット、152頁

1-3. 神の子と悪魔の子の対比(3:7-10)

3:7 子どもたちよ。だれにも惑わされてはいけません。義を行う者は、キリストが正しくあられるのと同じように正しいのです。

1. 罪を肯定する価値観に惑わされてはいけない。
 - (1) ヨハネの手紙の背景にいる異端者たちは、(聖書から見て)罪である行いを肯定していたようである。
 - (2) もし「キリストを信じれば罪から開放される」ということだけを強調すれば、「既に信じて天国へ行けるのだから何をしても関係ない」という極端で誤った方向へ進んでしまう。
 - (3) しかし、そのような考えに惑わされてはいけない。
2. 私たちにとってはキリストが歩まれたように歩むことの方が「自然」である。
 - (1) キリストを信じる者は、キリストのからだ(教会)の一部となっている。
 - (2) 私たちは神の子とされた。
 - (3) よって、私たちにとっては罪の生活を歩むよりも、神の子として歩む方が自然である。

3:8 罪を犯している者は、悪魔から出た者です。悪魔は初めから罪を犯しているからです。神の子が現れたのは、悪魔のしわざを打ちこわすためです。

1. 罪の中に生きている者の性質
 - (1) 新共同訳「**罪を犯す者は悪魔に属します。**」
 - (2) パウロは、不信者は悪魔に従って歩んでいるのだと教えている。

エペ 2:1-2 さて、あなたがたは、以前は自分の過ちと罪のために死んでいたのです。この世を支配する者、かの空中に勢力を持つ者、すなわち、不従順な者たちの内に今も働く霊に従い、過ちと罪を犯して歩んでいました。
 - (3) イエスご自身も、御言葉を受け入れない人々を指して「**悪魔である父から出た者であつて、その父の欲望を満たしたいと思っている**」と言われた(ヨハ 8:44)。
 - (4) 人の罪は、アダムとエバがサタンの誘惑に負けたことから始まった。
2. イエスが来られたのは、私たちの罪を取り除くだけではなく、「**悪魔の働きを滅ぼすため**」でもあった(新共同訳)。

- (1) イエスは十字架の「死によって、悪魔という、死の力を持つ者を滅ぼ」された(ヘブ 2:14)。
- (2) サタンの最終的な滅亡は将来のことである(黙 20:1-3, 7-10)。
- (3) しかし、イエスの十字架の業により、イエスの、そしてイエスに属する者たちのサタンに対する勝利は確定している。

3:9 だれでも神から生まれた者は、罪を犯しません。なぜなら、神の種がその人のうちにとどまっているからです。その人は神から生まれたので、罪を犯すことができないのです。

1. 神の子の内には「**神の種**」がとどまっている。
 - (1) 神の種の意味については、いくつかの説がある。筆者が有力だと思うのは、以下の2つである。
 - A. 神の種=御言葉
あなたがたが新しく生まれたのは、朽ちる種ではなく、朽ちない種からであり、生ける、いつまでも変わることはない、神のことばによるのです。(I ペテ 1:23)
 - B. 神の種=聖霊⁶ or 新生によって与えられた新しい性質
その栄光と徳によって、尊い、すばらしい約束が私たちに与えられました。それは、あなたがたが、その約束のゆえに、世にある欲のもたらす滅びを免れ、神のご性質にあずかる者となるためです。(II ペテ 2:4)
 - (2) いずれにしろ、「神の種」は私たちに永遠の命を与える力を持つものである⁷。
2. 神の子が悪魔に属する者のように罪の中に行き続けることは矛盾している。
 - (1) 私たちは聖霊の力によって神から新しく(霊的に)生まれ、新しい性質が与えられた(ヨハ 3:5-6 ; エペ 4:21-24)。
エペ4:21-24 ただし、ほんとうにあなたがたがキリストに聞き、キリストにあつて教えられているのならばです。まさしく真理はイエスにあるのですから。その教えとは、あなたがたの以前の生活について言うならば、人を欺く情欲によって滅びて行く古い人を脱ぎ捨てるべきこと、またあなたがたが心の霊において新しくされ、真理に基づく義と聖をもって神にかたどり造り出された、新しい人を身に着るべきことでした。
 - (2) だから、神の子が悪魔の子のように歩むことは矛盾している。

⁶ レイモンド・E・ブラウン『解説「ヨハネ福音書・ヨハネの手紙」』湯浅俊治監訳、田中昇訳(教友社、2008年)179頁を参照のこと。

⁷ ストット、142頁

3:10 そのことによって、神の子どもと悪魔の子どもとの区別がはっきりします。義を行わない者はだれも、神から出た者ではありません。兄弟を愛さない者もそうです。

1. 信者＝神の子と、不信者＝悪魔の子の違い
 - (1) その違いは、「義を行っているかどうか」にある。これは厳しいが、しかし当然の違いである。
 - (2) 新共同訳「**正しい生活をしない者は皆、神に属していません。**」

2. 正しい生活とは、神の御心に適っている生活ということである。
 - (1) ノンクリスチャンでも、道徳的に正しい行いをしている方々はたくさんいる。
 - (2) しかし、「正しい」つまり「義」とは、単に「道徳的に正しい」ということではない。
 - (3) 聖書が教える「義」とは、**神の御心に適っているかどうか、神の栄光に目的を置いているかどうか、という意味で「正しい」ということである。**

3. 正しい生活を送ることは、クリスチャンに与えられた使命である。
 - (1) 古代ギリシャ／ローマの社会は、道徳的に墮落していた。ヨハネの時代の異端者たちも、そのような生活を送っていたのかもしれない。
 - (2) 現代もそのような墮落した状況が私たちに覆っている。その中で、私たちは「この世と調子を合わせず」(ロマ 12:2)、聖書に示されている神の御心に沿った「正しい生活」を送ろうではないか。
 - (3) そのような行いによって、私たちは「正しい生活」を教えてくださいましたイエスこそキリストであることを証し、宣言する。
 - (4) 証によって、私たちは神の栄光を地上で現していくようにという使命を実行していく。
エペ 3:21 教会により、またキリスト・イエスにより、栄光が、世々にわたって、とこしえまでありますように。アーメン。

まとめ

1. キリストは私たちの内から罪を取り除かれた。
2. キリストは悪魔の業を打ち砕かれた。
3. 私たちはそのキリストと一つとされた神の子であり、私たちの内には神の種がある。
4. だから、私たちにとっては罪を犯さないことこそが自然な状態であり、そのような歩みをしていくように召されているのである。